

## 令和元年度 沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

### 1 趣 旨

- (1) 本県児童生徒一人一人の当該学年における一年間の学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。
- (2) 各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、年度初めに前学年の学習内容の習得状況を揃えるために実施する。

### 2 実施期日・対象学年・教科

(1) 小学校：令和2年2月19日(水)

対象学年	教科	対象学年	教科
第3学年	国語、算数	第5学年	国語、算数、理科
第4学年	算数	第6学年	算数

(2) 中学校：令和2年2月20日(木)、21日(金)

対象学年	教科
第1学年	数学
第2学年	国語、社会、数学、理科、英語

### 3 教科の調査結果

(1) 小学校

対象学年	教科	児童数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の児童の割合(昨年度値)
第3学年	国語	15,791	68.1	27.9	4.0	3.9 (2.8)
	算数	15,866	70.4	27.6	2.0	2.2 (2.3)
第4学年	算数	15,391	51.7	43.2	5.0	15.6 (7.7)
第5学年	国語	15,429	48.0	34.6	17.4	20.6 (22.9)
	算数	15,467	59.5	35.9	4.7	11.5 (12.0)
	理科	15,478	52.8	43.7	3.5	13.9 (14.5)
第6学年	算数	15,359	65.4	31.3	3.3	6.0 (7.9)

(2) 中学校

対象学年	教科	生徒数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の生徒の割合(昨年度値)
第1学年	数学	14,296	51.4	40.1	8.5	18.9 (21.8)
第2学年	国語	13,670	59.5	29.8	10.7	5.9 (5.1)
	社会	13,632	59.9	34.1	6.0	12.4 (26.9)
	数学	13,557	52.7	37.9	9.4	18.1 (20.3)
	理科	13,673	45.4	48.4	6.2	21.2 (31.7)
	英語	13,663	56.9	39.4	3.7	14.6 (14.9)

### 4 結果の概要(正答率30%未満の児童生徒の割合から)

(1) 小学校

- △小学校3年生算数の値が最も小さかった。
- ▼小学校5年生国語の値が最も大きかった。
- △5科目で、昨年度値より減少した。

(2) 中学校

- △中学校2年生国語の値が最も小さかった。
- ▼中学校2年生理科の値が最も大きかった。
- △5科目で、昨年度値より減少した。

※問題内容や出題傾向が昨年度と異なっており、調査結果を単純に比較することはできないが、正答率30%未満の児童生徒の割合について昨年度値と比較を行った。

### 5 課題及び今後の対応

各教科の記述式の設定で、誤答率や無解答率の値が大きくなる傾向がある。その傾向を改善するために下記(1)~(4)に留意した授業改善を図る必要がある。

- (1) 単元計画に、具体的な事象や体験活動を積極的に取り入れ、児童生徒が学んだことの意義や価値を実感できる学習活動を日常化する。
- (2) 各教科で正答率30%未満の児童生徒の学習状況を客観的に分析し、フィードバックを行う。
- (3) 各学校の正答率の低い設問は、年間指導計画に位置づけ、年間学力向上サイクルの充実を図る。
- (4) 「条件に沿って書くこと」「目的に応じて書くこと」など、全教科体制で授業改善を図る。

各学校では、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の確実な定着を図り、子どもたちが様々な場面に活用する力や課題解決のために構想を立て実践し評価・改善していくような学びの充実を推進する。